７２０号

きかん紙

横浜室内合唱団

２０２６．３．４

2026年　3月　練習計画　横浜室内合唱団

日・曜＼分		20分	20分	5分	20分	10分	40分	5 分	40分	20分	会場　時間
14日	(土)	発声	「草原の別れ」「わたりどり」をピアノ伴奏で合わせます☒	休憩	「Ave Verum Corpu」を譜読みします	休憩	「水すまし」を譜読みします	休憩	「なぎさ歩めば」を譜読みします	愛唱集から	川崎市旭町子供文化センター4階 13:00～16:00（安井さん）
日・曜＼分		20分	30分	5分	30分	10分	30分	5 分	30分	20分	会場　時間
28日	(土)	発声	「若き日の」「潮音」を譜読みします	休憩	「水上」を譜読みします	休憩	「Ⅰ 月夜」を譜読みします	休憩	「夏まつり」「流れ星」を譜読みします	愛唱集から	寺尾地区センター 13:00～16:00

（練習のポイント）

①無伴奏曲［流れ星」「潮音」「夏まつり」「若き日の」を譜読みし、合わせます。
　　各パートの旋律やハーモニーに注意して、詩の表現を考えながら歌い、暗譜しましょう。
②混声合唱組曲「月光とピエロ」より、Ⅰ「月夜」中間部を譜読みをし、全体を通します。
　混声合唱組曲「千曲川の水上を戀ふる歌」より、Ⅰ「水上」
　　詩の意味や曲の表現を考えながら歌いましょう。
③混声合唱組曲「心の四季」より、Ⅱ「みずすまし」
　混声合唱組曲「旅」より、Ⅳ「なぎさ歩めば」
　　詩の意味や曲の表現や、構成を考えながら、譜読みしましょう。
④混声合唱曲　「草原の別れ」「わたりどり」（ピアノ伴奏）を譜読みし合わせます。
　　詩の意味や曲の表現や、構成を考えながら譜読みし、暗譜しましょう。
⑤「Ave Verum Corpus」
　　発音に気をつけながら譜読みしましょう。

練習の記録（2026 年 2 月 14 日）　　於：寺尾地区センター 13 時～16 時

発声練習（ひびき、支え、口の奥をあける、力を抜く）

① 草原の別れ　・２番の歌詞で練習　各パート音取り　T→B→A→S
　・かｋａ(カ)　ｋの息の当て方　　…ずのおもい←このお大切に
　・フレーズを大切に、まとまりを感じて歌う

② アヴェ・ヴェルム・コルプス　・アヴェ(めでたし)　・de はかるく Ma-ri-a をはっきりと
　・のばしているａやｅなどははっきりとした音ではなく　・pro ho mi ne　ho(ｵ)を強く
　・最後の ex-a-mi-ne のmi ベースは♩、他のパートは♪なのでベースの音を聴いてください

③ みずすまし　・１～３頁を練習
　・歌詞/言葉の切り方など大切に　アルトパートソロ部分 - 魅力的に歌う
　・言葉に重みを感じ　話をするように　・言葉を伝える感じﾚﾁﾀﾃｨｰﾎﾞのように
　・“やや/おもく”(/切る)　・テナーベース“だが”→やや暗く　・“ぶあつい”→テヌート

④ 風が（心の四季）春の部分歌う　(見えない)じかんにを丁寧に歌う“ん”に注意

⑤ なぎさ歩めば　・各パートの音取り
　・最初の“なぎさーあゆめば”音は切らずに“あ”を言い直す　・最後通しで歌った

⑥ 最後に「わたりどり」「草原の別れ」を歌った。

参加者：18人　(S5A6T2 B3C1P1)　　記録：S

裏面に続く

きょうの練習の成果② … 心の四季「みずすまし」を歌って … 2026. 2. 14

組曲２番目の「みずすまし」を歌い始めて２回目になりました。歌う際の注意点の成果を記録しておきます。

・「わたしたちは」の「し」は「×」の八分音符ですので、無声音で発音します。特に強くしないで自然に「わたし」と発音しました。

・「みずの　おもてに　いきている」は、水面を泳ぐみずすましを人の日常生活に当てはめて表現しているので、「おもてに」「いきている」の言葉をはっきり歌いました。

・「だが」は逆接の接続詞で、ｍｆで歌うようになっています。「だが」を使うときは、割合い冷静な言い方の時が多いように思いますので、あまり派手な表現ではなく、落ち着いた感じで強い表現が必要です。「だ」の発音を、口を大きく開けるのではなく、開き方を少し少なくし、「が」は鼻濁音で発音しました。

・「ぶあつい」は、ｍｆですが、和音を正しく決めることによって、十分表現できました。

※この曲「みずすまし」は、朗読が合唱になっている形です。ですから、言葉を大切に歌うことが必要ですね。次回は、「みずすまし」を詩人がつぶさに観察する様子が歌われます。

・「風が」の春の部分を復習　「じかんに」については、歌い方を模索しました。

記録　YM

練習の記録（2026 年 2 月 28 日）　於：寺尾地区センター 13 時～16 時

① 発声練習

② 夏まつり　各パートごとフレーズに分けて練習

③ 水上　・アルト-ソプラノの音のぶつかりを注意

・ベース　力を入れずに歌う　メロディをしっかりとる

④ 月夜（月光とピエロ）

・ピエロの“ピ”→しっかり発音

・子音をきちんと歌う

⑤ 若き日の　ゆったりと歌う

⑥ 潮音　曲想を見ながら歌う　dolce　molt cresc.　allargand

⑦ 最後に愛唱曲集から「Ave Maria」「遙かな友に」「さよならみなさま」を歌う

参加者：１５人（S4 A5 T２ B３ C1）　記録；I

日常は分厚い～吉野弘の詩「みずすまし」

「みずすまし」　吉野 弘

一滴の水銀のように やや重く
水の面を凹（くぼ）ませて 浮いている
泳ぎまわっている
そして時折 ついと水にもぐる。

あれは暗示的な行為
浮くだけではなく もぐること

ぼくらがその上で生きている
日常という名の水面を考えるだけで
思い半ばにすぎよう――日常は分厚い。

水にもぐった みずすまし
その深さはわずかでも
なにほどか 水の阻止に出会う筈（はず）。

身体を締めつけ 押し返す
水の力を知っていよう。

してみれば みずすましが
水の裏表を往来し出没していることは
感嘆していいこと。

みずすましが死ぬと
水はその力をゆるめ
むくろを黙って水底へ抱きとってくれる
それは みずすましには知らせない水の好意。

（『新選吉野弘詩集』 1982 年刊）